

テラヴェール設計方法

設計基準 : (財)土木研究センター 発行
補強土(テールアルメ)壁工法 設計・施工マニュアル
平成 26 年 8 月 改訂版

・テラヴェールは、補強土として多くの実績及び各種機関の研究実績のある、テールアルメ壁工法と同様の補強原理によって、急勾配の法面を構築する斜壁補強土である。従って、その使用する補強材は、帯鋼であり、土中での摩擦効果は垂直壁のテールアルメ工法と同等である。

・「主働領域」

テラヴェールにおける盛土内の主働領域は、壁面の勾配(α)によって変動するが、 $\alpha=90^\circ$ すなわち垂直壁では、テールアルメ工法の主働領域と一致する。
勾配 α が小さくなると(壁面勾配が緩くなると)主働領域も狭くなる。

・「土圧係数」

土圧係数は、テールアルメ工法と同様に鉛直方向に対し、静止土圧係数 K_0 から主働土圧係数 K_A に直線的に変化し、土被り深さ $Z=6.0\text{m}$ 以深は K_A をとる。
この際の K_0 、 K_A は、土の内部摩擦角 ϕ と壁面勾配 α の関数によって得られるが、斜壁補強土壁の研究が先行している、フランスの考え方を採用している。

・「摩擦係数」

摩擦係数は、その盛土材の基準が、テールアルメ工法に準じているので、テールアルメ工法で採用されている見かけの摩擦係数 f_i^* を用いている。

・「内的安定」

テールアルメ工法の設計手法に準じている。

・「外的安定」

テールアルメ工法に準じ、盛土の全体安定検討に対し所定の安全率が確保できるようにする。